

NIHONJIN NO WASUREMONO
第2部 忘れもの 22

教育

高坂●京都では住民の新しい自治組織として町組が、明治維新直後の1869(明治2)年に敷かれ、原則1組1校、計64の「番組小学校」が開校。まずは「読み・書き・そろばん」を教えました。建設費や運営資金の多くは公費に頼らず、「かまど」がある家、つまり地域住民のほとんどが提供する「かまど金」で賄われる、まさに町衆たちの力で学校教育を始めたわけですね。これが日本の小学校教育の先駆けになりました。

特筆すべきことは、京都を中心に活躍していた芸術家の作品が、作家本人や地域の人々により無償で各学校に寄贈されたことです。当時の子どもたちは、これらの芸術作品を素材に、道徳教育に当たる「修身」や情操教育も受けていました。地域全体からしっかりと見守られ、愛されることで、おらかな気持ちが育まれ、現在のような、いじめといった行為は生まれなかったのではないのでしょうか。現在の義務教育を見ていて、明治時代の学校教育に現代の日本人の忘れていた大切なものが含まれていたと、私には思えてなりません。

中西●幕末から明治維新期にかけての日本は、災害や凶作、幕藩体制の崩壊などで混乱を極め、人々の生活は非常に苦しい時代でした。だからこそ逆に次世代を担う若者たちに対しての教育が大事だと考えたのでしょう。当時の中国など東アジア諸国の教育は官僚養成に重きを置いていたが、日本では、誰にでも一定の教養を身に付けさせようとしたことも忘れてはなりません。こうした傾向は江戸時代、適塾、松下村塾のような私塾や寺子屋での庶民教育が発達していたことが基盤にあったことも大きな要素です。私塾で学んで、伊藤博文、井上馨、福沢諭吉など、自らの意志で海外留学した若者たちも幕末には多く出て、近代日本へと



高坂節三氏
財団法人日本漢字能力検定協会理事長

明治の教育には大切なものが含まれていた

言葉、文字は国や地域の文化が凝縮した鏡

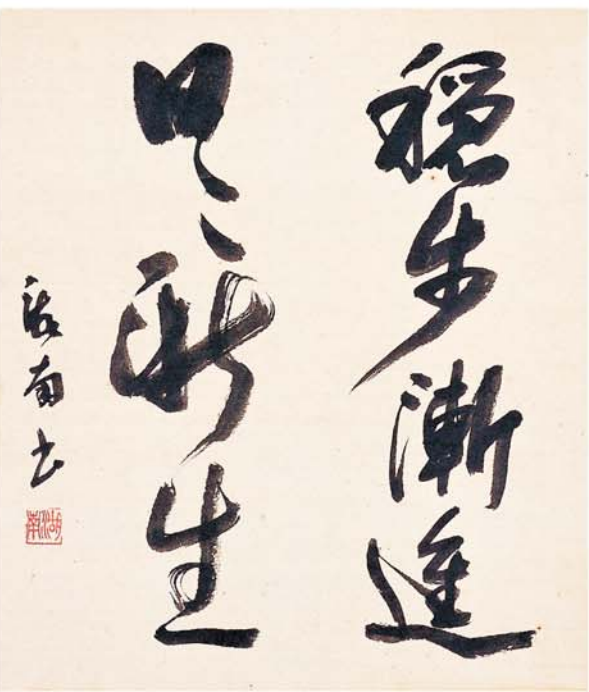
中西 寛氏
京都大学大学院法学部研究科教授



発展させる中核で活躍する人材へと成長します。

最近では多様な情報が世にあふれ、教育自体もその波に巻き込まれ、あれもこれもと教えずにはいけなくなることが多くなりすぎている。先生も新しい情報を先んじて取り入れなくてはならないし、子どもたちも落ち着いて情報的な教育を受ける環境ではなく、学校現場における各種の問題を生み出している要因でもあるので、

高坂●日本の近代化を進める過程で、日本語をどうするかについて、多くの意見が出されました。明治6年に



東洋史学者であった内藤湖南の書「日新漸進 日々新生」(錦林小学校蔵)

最初の近代的啓蒙団体「明六社」の中でも、森有礼は一時、英語を公用語とし、「日本語廃止論」を発表しましたし、儒教に造詣が深い西村茂樹は漢語を重んじ急速な欧化主義に異を唱えました。こうした中、西周は「哲学」や「芸術」「理性」「心理学」などの訳語を発表し、漢語は難しいので送り仮名を振ることを主張したとされる福沢諭吉も「経済」という訳語を造りました。これらの和製漢語は素晴らしい表現のものも多く、中国などに逆輸出され、日本だけでなく、漢字圏諸国でも広く使われています。

ところが最近の日本では、役所の文章も含めて、外来語の表音部分だけを利用した片仮名表記があふれています。これは、漢字で考える能力が日本人全体で低下している証でしょうか。例えば「グローバルゼーション」という言葉がありますが、これを読み、聞くだけでは、小中学生には意味が分かりません。ところが中国ではこれを「全球化」と訳して使います。これだと子どもたちも、そういうことかと、何となく理解できそうです。今では中国の方が漢字の造語力では勝っているかもしれません。

中西●言葉、文字は、それぞれの国や地域の文化が凝縮した鏡だと言えます。日本人そのものの性格もそうですが、日本語は非常に柔軟性に富んだ言葉で、異なる文化を受け入れやすい構造になっているのが特徴です。明治維新前後、日本の近代化に向けて活躍した人々も、積極的に欧米文化を受け入れ、その後の日本の発展の基礎を作り上げました。ところが今日では、異文化の表

●こうさか・せつぞう
1936年生まれ。59年京都大学経済学部卒業。同年伊藤忠商事株式会社入社、89年同社取締役、93年同社常務取締役を歴任の後、95年栗田工業株式会社代表取締役専務、99年同社取締役会長を経て2011年3月より現職。その間、東京教育委員会、経済同友会幹事を務める。

●なかにし・ひろし
1962年大阪府生まれ。85年京都大学卒業。87年同大学大学院修士課程修了。91年同大学法学部助教授、2006年同大学公共政策大学院教授を経て、09年から現職。著書に「国際政治とは何か―地球社会における人間と秩序」、「新・国際政治経済の基礎知識」など。

体で低下している証でしょうか。例えば「グローバルゼーション」という言葉がありますが、これを読み、聞くだけでは、小中学生には意味が分かりません。ところが中国ではこれを「全球化」と訳して使います。これだと子どもたちも、そういうことかと、何となく理解できそうです。今では中国の方が漢字の造語力では勝っているかもしれません。

中西●言葉、文字は、それぞれの国や地域の文化が凝縮した鏡だと言えます。日本人そのものの性格もそうですが、日本語は非常に柔軟性に富んだ言葉で、異なる文化を受け入れやすい構造になっているのが特徴です。明治維新前後、日本の近代化に向けて活躍した人々も、積極的に欧米文化を受け入れ、その後の日本の発展の基礎を作り上げました。ところが今日では、異文化の表

きょうの季寄せ(十一月)
百舌鳥のふる
野中の栂よ
十月
嵐

14日からすでに旧暦10月に入っている、ということなのでこの百舌鳥は秋ではなくて「冬の鳥」。

江戸時代の鳥の詠み方は「鳴くや」であり、「声」である。聴覚で楽しんだ。その中で風蘭の視覚は突出した把握であり、声を言外に感じさせたがらなく、声も存在を明示する。加えて和歌の世界のように木にいて、くちくちと、杭に立上った。これが俳諧である。(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」
塚本昌宏
内装業 京都府伏見区/70歳

言の葉に思う
春は花のよう、秋は月や紅葉のよう、と四季の移ろいを褒めたたえる言葉は、幾重にもしつらえられて限りなく豊かです。

歴史を綴る人々の、時の思い、人柄までも31文字で伝える凄まじく、古事記の昔から、おたがいを傷つけることなく、政変、事変を言葉の力で解いてきた神々や先人達の深い思いがありました。

色、香り、音色、肌触り、思い、いずれの世界にも細やかな感性に満ちた言葉に魂を吹き込み、自然を敬愛し、いのちへの歎き込み、自然を敬愛し、上げてきた民族の伝統がありました。

今、幼い日に耳にして、心にとどめたあの美しい言葉の数々は消し、魂を失ったカタカナ交じりの会話だけが、虚しく悲しみに飛び交います。時の流れの激しさにのみ込まれて、いつしか忘れていた、私たちの誇りに、今一度心を止めて、その美しい響きに触れてみたいと思うのです。

「きょうの心伝て」募集
●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか?暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の承諾、伝えたい京都に残る心遣いなどをお寄せ下さい。京都新聞社で選考、活用する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内、縦書き)住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8857 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。
E-mail: wasuremono@nhkkyoto-np.co.jp
FAX: 075-222-2200

●日本人の忘れものは、京都新聞ホームページ/kyoto-np/kp/kyo_np/info/nwc/よりご覧いただけます。

たくさんのご応募・ご投票ありがとうございました!

選ばれました、(新)おけいはん。

初の一般公募に1,801件の応募が!

「おけいはんの席」が今年も続きます。今年の夏の、駅のポスターやCMでこんな呼びかけをはじめたのが、京都と大阪、滋賀をむすぶ京阪電車。イメージキャラクターを務める女性を初めて一般から募集し、京阪沿線のことんきわめるおけいはんの席に、1,801件もの応募が集まりました。

一般参加によるWEB投票も!

選考過程では、書類選考や面接で絞り込まれた6名により、一般参加できるWEB投票を開始。その結果を参考にしつつも、すでに完成された魅力により

「これからの成長への期待」や「飾らない明るさ」といった京阪沿線の心を、審査員の方で選りすぐられた1名が、新おけいはんに選ばれました。

新おけいはんのチャレンジとは?

こうして誕生した新おけいはんのテーマは「チャレンジ」。「ほんまのおけいはん」をめざしてさまざまな挑戦をすることで、このキャンペーンの真の主役である「京阪に乘るすべてのおけいはん」に、沿線の魅力を伝えていきます。また、一般参加のチャレンジイベントも計画! 第一回目の舞台は「京都・祇園」です。どうぞ、みなさまお楽しみに。

チャレンジ! おけいはん

WEB, Twitter, Facebookにて大公開!

チャレンジおけいはん 検索 @c.okeihan Facebook

おけいはん

